

[社 会]

小学校社会科における空間認識力を高める授業実践

— 第3学年「買い物はどこで」の実践を通して —

小林真紀人*

1 はじめに

2022年より、高等学校地理歴史科は「歴史総合」と「地理総合」が共通必修科目となる。現行学習指導要領では、世界史と、日本史か地理のどちらかを選択することになっているため、「時間軸」と「空間軸」をバランスよく育成することが困難となっている。新学習指導要領では、その問題を改善することが求められた。杉浦・中川(2020)は、このことから、「空間認識と時間認識をバランスよく育成する社会科(「地理歴史科」を含む)学習が求められていることを鑑み、小学校段階における空間認識力の育成に着目することで、社会的事象の地理的な見方・考え方を高めるための基礎を培う教育内容」を提案している。

また、山本(2019)は、「生徒たちの空間認識を育むのに有効なのは地図の活用であることはいうまでもない。どのような地図をどのような単元で活用するのが教員の教材研究に求められるだろう」と論じている。さらに、山本(2019)は、地図類で確認し、実際に現地を訪問し見ることで空間認識を育む効果、即ち空間認識力を育む効果があると指摘している。

これらの先行研究から、空間認識力の育成を図るためには、地図の活用が必要不可欠であり、発達の段階や学習者の学習状況、単元に身に付く資質・能力等に応じて、様々な地図の中から選択し活用方法を吟味することが求められる。

社会科の学習で最初に行う、身近な地域や市の様子についての学習単元においては、学校の周りの様子から市の様子に至るまで、白地図等にまとめる教育内容になっている。また、現行の学習指導要領においては、第3学年から地図帳を配布し、活用することとなった。このことから、第3学年において、地図を活用した学習の重要性が高くなっていることがわかる。

第3学年では、身近な地域や市の様子について学習した後に、生産や販売の仕事について学習する。教科書によって順番はさまざまであるが、ここでは、スーパーマーケットなどの店舗(販売の仕事)、工場・農家など(生産の仕事)について学習する。販売の仕事について調べる前に、各家庭での買い物について調べるのが一般的であるが、各教科書の内容には、それぞれ、地図の扱いについて違いがある。教育出版は、買い物調べの結果を、グラフ形式の図と地図の両方にシールを貼って表しているのに対し、東京書籍、日本文教出版は、グラフ形式の図のみで表している。ただし、東京書籍は、買い物調べをする前に、児童たちが普段よく行く店については、地図上にシールを貼って表している。また、教育出版は横浜市中山駅周辺、東京書籍は福岡市唐人町駅、大濠駅周辺の、徒歩圏内の狭い範囲を地図で表している。大都市のように、児童の生活圏内でほとんどの買い物を済ませることのできる地域は、教科書の地図を参考に地図を作成すればよいが、地方では車で買い物に行くことが多く、買い物に行く店がより広範囲に及ぶため、地図もそれに適した広範囲のものを用意する必要がある。また、地図が広範囲になると、児童の生活圏外の地域が多く含まれることになり、買い物調べの結果を、自らの生活経験や知識をもとに考察することが難しくなると考える。

販売の仕事についての先行研究として、片山(2011)や、岸野(2011)などが挙げられるものの、上記のように、買い物調べの結果を地図上にまとめることや、その課題について重点的にまとめられた研究は少ない。

そこで、児童の生活圏外に買い物に行く回数が多い地方都市において、地図でまとめるためには、どのような手立てが必要か明らかにする必要があると考えた。本稿では、児童の空間認識力を育むことを目的に、白地図の扱い方を工夫し、その連続性を重視して実践に取り組んだ。授業記録や成果物から、児童の空間認識力がどのように情勢されたか、実践を通して明らかにする。

*長岡市立豊田小学校

2 研究の概要

(1) 研究の目的

本研究は、自家用車の保有率が高いなどの特徴をもち、児童の生活圏外で買い物をすることが多い地方都市において、白地図の利用方法の工夫によって、児童の空間認識力を高めることにつながったか、実践を通して考察することを目的にする。そのためには、教科書の例示とは異なる、地方都市の買い物調べの実態に応じた地図の用意が必要となるため、教材開発の方法についても論じていく。

(2) 研究の方法

児童の空間認識力を高めるために、本研究で取り組む白地図の利用方法は以下のとおりである。

① 買い物調べの結果を、白地図上にシールを貼って考察する。

買い物調べの結果、ほとんどの店が旧長岡市内（以下：長岡地域）であったため、長岡地域の白地図を用意し、そこに店の種類ごとにシールを色分けして貼っていく。

② 買い物調べの結果を、店の種類、店の立地の2点から考える。

スーパーマーケットへの買い物が多いのが一番の特色であるが、それだけでなく、どの地域への買い物が多いかを明らかにする。

③ 買い物調べでスーパーマーケットへ行く人が多かったことから、スーパーマーケットで買い物をする人が多い理由について考える。

スーパーマーケットへ買い物に行く人が多い理由について、教科書の挿絵、児童の実体験などに加え、地図を用いて考える。

(3) 学区及び周辺地域の概要

新潟県長岡市は、人口263,942人（令和3年10月現在）の、新潟県第2の地方都市である。自動車・軽自動車の1世帯あたりの保有率は、平均2.2台（令和2年）であり、地方都市の例に漏れず、モータリゼーションが進行しているといえる。市内には、北陸自動車道、関越自動車道などの高速道路、国道8号線、国道17号線などの幹線道路が通り、片側2車線以上の広い道路も多くみられる。一方で、上越新幹線や信越本線、上越線などの鉄道路線が通り、その全てが接続するJR長岡駅周辺は、Cocoroなどの商業施設や、アオーレ長岡などの公共施設が多く立地する。

実践を行った長岡市豊田小学校は、JR長岡駅から約2.4km南東に位置している。花園地区や旭岡地区など、近年になって宅地造成された地域が多く、人口増加が著しい。それに伴い、スーパーマーケットやディスカウントストアなどが多く出店しており、その多くが広大な敷地と無料駐車場を有する郊外型店舗である。また、国道17号線（長岡バイパス）が近くにあり、北側にある美沢地区、川崎地区など、商業施設が多い地区へのアクセスも良い。平成25年には、信濃川に架かるフェニックス大橋が開通し、信濃川西部地域へのアクセスも改善された。

以上のように、豊田小学校区はモータリゼーションが進行しており、郊外型店舗の出店が進んでいることが分かる。このことが、買い物調べの結果にどう表れるかを調べる必要がある。

3 授業の実際

(1) 単元名 「買い物はどこで～店ではたらく人と仕事～」

(2) 研究対象 第3学年25名（男子13名，女子12名）

(3) 単元計画（全9時間）

次	時間	学習内容
1	1	・わたしたちの身近にある販売や生産の仕事に関心をもち，わたしたちの生活とのつながりについて調べる意欲をもつ。 ・家の人の買い物について想起し，調べる計画を立てる。
	2 3 本時	・買い物調べで調べたことをもとに，店のある場所やよく行く店をまとめ，買い物の特徴をとらえる。 ・買い物調べの結果から，買い物によく行く店の特徴に気づき，発表する。 ・スーパーマーケットに多くの人が行く理由を考え，スーパーマーケットについて調べる計画を立てる。
	4	・レシートの内容から，支払いの工夫や，売り上げを高めるための工夫について考える。
	5	・スーパーマーケットに多くの人が行く理由を考え，スーパーマーケットについて調べる計画を立てる。
	2	6
2	7	・スーパーマーケット見学を振り返り，店で働く人の仕事の内容や工夫について考える。
	8	・スーパーマーケットの商品の産地を調べ分かったことを発表し合う。
	9	・お客や家の人が，どのようなことに気を付けて買い物をしていたか，またその理由は何かを考え，発表する。

(4) 実践の概要

本稿で主に論ずるのは，単元のうち，第2時，第3時についてである。

第1時と第2時の間に，児童たちは各家庭で買い物調べを行った。買い物調べは，1週間のうち，平日2日間，休日2日間の，合計4日間行った。買い物調べのカードには，買った日時，買いに行った店（チェーン店など，複数店舗がある場合は，〇〇店などの店舗名も），買った品物，気づいたこと，家の人へのインタビューなどについて書き込んだ。第2時の授業の前に，買い物調べのカードを集め，教師側で白地図上にシールを貼った。

第2時では，導入部で白地図を見せた結果，児童たちからは「やっぱり豊田小学校の近くの店が多い」「スーパーマーケットが一番多い」などのつぶやきがあった。

展開部では，買い物調べの結果を見て，多くの人が行く店の種類と立地を読み取った。店の種類としては，圧倒的にスーパーマーケットが多いこと，そしてその多くが豊田小の周辺に集中していることが挙げられた。立地としては，平日は豊田小の周辺や，家族の勤め先の近くの店が多く，休日になると，信濃川の左岸や川崎地区など豊田小から少し離れた地域への買い物が増えることが挙げられた。中には，駅から2km以上離れた川崎地区の店を，「駅から近くて便利」と捉えた発言もあった。

終末には，本時の授業で学んだことをノートにまとめた。その中で，スーパーマーケットへ行く人が多い理由は，食料品は誰もが日常的に買う必要があること，品ぞろえが豊富なこと，どの店舗でも商品の位置が分かりやすいことなどが挙げられた。

第3時の導入部では，前時に提示した地図を見た上で，スーパーマーケットへ行く人が多かったことを想起し，スーパーマーケットの工夫について考えることを課題として設定した。

展開部では，スーパーマーケットがたくさんのお客に来てもらうための工夫をグループで考え，ホワイトボードにまとめた。その際，児童自身の経験や，買い物調べでの家の人の発言，教科書のイラストをもとに考えるようにした。その結果，商品の配置を工夫していること，品ぞろえが豊富なこと，店舗が広いこと，チラシで安い商品を周知していることなどが挙げられた。中には，新型コロナウイルス感染予防のため，消毒を設置したり，店員が手袋をつけたりしているといった気づきもあった。スーパーマーケットの立地に関するものとしては，店がいろいろなところに多くあり，家の近くにもあることが挙げられた。

終末では、スーパーマーケットの工夫について、さらに知りたいことを発言し、次時のスーパーマーケットについて調べる計画につなげた。その中で、「スーパーマーケットで従業員しか入れない場所を見てみたい」「トラックで荷物を運んでいるところを見てみたい」など、普段客の立場からは見ることのできない場について興味を示す発言が多く見られた。

(5) 白地図作成の工夫

買い物調べの結果、そのほとんどが長岡地域での買い物であったため、該当する範囲の白地図を、模造紙2枚分の大きさで用意した。ここには、主な道路と鉄道、河川などを示してある。国道には番号を示し、薄いオレンジ色で示した。これにより、道幅の広い幹線道路沿いの店舗の傾向に児童が気づくことを狙いとしている。豊田小学校の位置には、「文」の地図記号で示してある。道路や鉄道、河川の線は、google mapをトレースしながらWord文書で作成し、次年度以降も修正しながら使えるようにした。

買い物調べで挙がった店については、店の種類ごとにシールを貼って示した。赤、青、黄、緑、黒の5色の分類は、児童の買い物調べの結果を見て、よりバランスが良くなるようにした。中でも、スーパーマーケットは次時以降の学習につながることから、より目立つ赤色にした。なお、長岡市北部の新保地区や、新潟市の店舗、移動販売のトラックなど、地図の枠に収まらない店舗は、欄外に示した。スーパーマーケットは31回、日用品に関する店舗は17回、服・靴に関する店舗は5回、大型店は7回、その他の店は7回の買い物があった。



写真1 買い物調べの結果を表した白地図

4 実践の考察

(1) 第2時について

買い物調べの結果を地図にまとめたことで、豊田小の近くと、離れた場所での結果の違いを、地理的な見方から考えることができた。次に学習するスーパーマーケットにおいては、広い店舗や、駐車場を確保することが、立地という地理的要因と深く関連するため、地図上で考えることは有効であったと考える。地図上に国道の番号を貼り、道を色分けしたことも、子どもにとっては「広い道路沿い」というイメージにつながったようだ。

買い物調べの結果は、地図と共に表やグラフも活用することを考えたが、地図のみの提示でも、店ごとに色分けしたシールを貼ったことで、どの店の買い物が多いかは一目瞭然で把握できたことから、あえて地図のみの提示でも充分であったと考える。

一方で、授業では、店の種類と店の立地の2つに分けて気づいたことを考えたが、児童たちがどのように考えればよいか、混乱が生じている部分があった。店の種類と立地については、その両方を一元的に考えていくため、店の種類、

立地（児童には「場所」と伝える）というキーワードを与えるにしても、あえて分けて考える必要はなかったと考えられる。

また、平日と休日の買い物調べの違いについて考えを深めるところまでは到達できなかった。平日と休日の買い物の違いを明確にすることで、平日は自宅近くや、親の職場の近く、休日は普段行かない離れた大型店舗に行くことが多い、といったような、位置的な違いを見つけることができる。平日と休日、それぞれの買い物地図を別に用意することでその問題は解決するが、調査数確保のため、平日5日間、土日4日間など、より長期間の買い物調べを行うことが必要であり、各家庭の協力が必要となる。

今回の買い物調べでは、長岡駅周辺など、市街地の中心部への買い物が見られなかったため、中心市街地と郊外の比較がしにくい部分があった。買い物調べの結果になくとも、中心市街地の店舗の様子を、写真などで示す必要があったと考える。

(2) 第3時について

買い物調べの結果を地図上にまとめたことが、スーパーマーケットの工夫について考える上でどのように影響するかを観察しながら授業を行った。その結果、立地に関する気づきは「店がいろいろなところに多くある」「家の近くにもある」の2点に留まった。第2時で中心市街地での買い物がなかったことから、児童にとっては、駐車場や建物のスペースが広い店舗が当たり前で、あえてそれについて触れることがなかったと考えられる。児童の生活経験上、第2時に見られたように、長岡駅周辺の中心市街地に買い物に行くことが少ないことから、駐車場や店舗の広さに触れなかったとみられるが、ここでも、中心市街地と比較することが必要となったかもしれない。

第3時は第2時で用いた地図を提示して授業を行ったが、立地に関する気づきが少なかったことは、教師側からの発問や投げかけにも工夫が必要であったと考える。スーパーマーケットの工夫は、教科書の挿絵を用いて考えさせたため、教室前方に掲示した地図には目がいかなかったこともある。

- ・ジュースやお菓子など、商品を分けておいている。
- ・看板で商品の売り場を分かりやすく表している。
- ・みんなが買うものを見つけやすいところにおいている。
- ・おすすめ品ほど見やすい場所に置いている。
- ・アイスや冷たい飲み物は、レジの近くに置いている。
- ・コンビニと比べるといろいろなものが売っている。
- ・チラシで半額など安い商品を見せる。
- ・他の地域に住む人にも、Webチラシでスーパーのことを伝えている。
- ・お店が広い、レジが多い。
- ・今はコロナがあるから、店員さんが手袋をしたり、レジにビニールシートをかけたりしている。
- ・店がいろいろなところに多くある。
- ・店が家の近くにもある。
- ・レシートを渡している。

資料1 スーパーマーケットの工夫 班の発表での主な内容

(3) 白地図について

白地図を模造紙2枚分で広く示したことで、児童は視覚的にわかりやすく、地理的な視点から買い物調べの結果を考えることができた。白地図に示す、道路や地図の情報量も適当であり、幹線道路や、大規模な河川（長岡市における信濃川）も認識できた。

しかし、第2時において、駅から2km以上離れた店舗を「駅から近くて便利」と答えた児童がいたように、縮尺については分かりにくい部分があった。縮尺や東西南北を示す記号、豊田小学校の位置を示す「文」の記号を、より強調して表すことが必要であった。

白地図の作成には、多くの時間と労力を要する。本稿では、google mapとwordの「図形」機能を用いて地図を作製した。道路や鉄道などの線を明確に表せ、修正が容易だという良さもあるが、作成に時間がかかる上、地図の正確性は

低い。各学校においては、校区の地図だけでなく、それよりもやや広めの範囲の白地図を予め制作しておくこと、社会、生活、総合的な学習の時間等で有効的に活用することができるだろう。また、国土地理院の地図などを活用し、正確性を確保することも求められる。

(4) 本研究で得られた知見と今後の課題

① 得られた知見

- ・白地図を活用することで、店の種類だけでなく、立地について地理的な見方から考えることができ、空間認識力を高めることができた。
- ・学校の周りや市の様子についての学習から、連続性を持たせて学習することができた。
- ・店の種類をグラフで示すことはしなかったが、地図上に貼られたシールの色によって、おおよそどの店の種類が多いか把握できていた。児童の混乱を招かないためにも、白地図のみで店舗の分布の特徴を読み取るのは、有効であったと考える。

② 課題

- ・これまで学習した、学校の周り、市のいずれかでなく、長岡地域という範囲について考えたため、これまでにない範囲の学習で、少し混乱があった。前單元か、総合的な学習の時間において、「長岡地域」という、学校の周りとの間の範囲の学習が必要であったと考える。特に、市町村合併により、市町村の面積が大きく広がった地域には必要である。
- ・白地図だけでなく、写真や映像などの資料を用いて、長岡地域内の様々な地点の特色を明らかにすることで、店舗の特色もより明確に表していくことが必要である。
- ・買い物調べのカードには、買った品物をできる範囲で記録し、休日と祝日に分けて記録したが、その考察については不十分なところがあった。児童に混乱を与えない上で、買い物調べのカードを工夫し、より複合的な要素を考えられる工夫が求められる。

参考文献

- 片上宗二『「社会研究科」による社会科授業の革新』風間書房、2011年、113 p
- 岸野存宏「私たちのくらしと買い物」東京学芸大学附属世田谷小学校研究紀要43号、2011年、101～113 pp
- 杉浦勉・中川洋一「小学校社会科における空間認識力の育成を図る実践研究」北翔大学教育文化学部研究紀要5号、2020年
- 前田俊二「地理的な見方・考え方をどうするか」地理、34巻4号、1989年、32～35 pp
- 文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会編』日本文教出版、2017年、217 p
- 山本實「時間認識を育てる年表、空間認識を育てる地図の活用」『教育科学 社会科教育』2019年9月号（725号）、92 p
- 長岡市統計年鑑 令和2年版